

里見八犬傳

第十輯

卷之七

へ18
709
55



曲亭馬琴著

明治三六年
十月九日
購求

第十輯

八友傳

東京名山閣版

門遠 13
號 709
卷 11

八友傳第九輯中帙附言

本傳の文化十一年甲戌の春書賈平林堂の板元の為第一輯の腹稿と思ひ起せ
 去平林堂類聚既七旬長編の刊行果さん心許りそそ夥計の書賈山青
 堂不譲んと請ひて予の意不儘して當時稿本五巻と山青堂取らけりかくて書
 畫削刷の工成りたる年の冬始めて世に見つるものとありぬ十三年丙子の春正月第
 二輯五巻と續出未及く世評の喝采看官亦復後輯の出ると俟と一日千秋の
 如しのめり是より後山月堂多慾の故他支不航をゆえり刊行等閑の年間これ
 あり第三輯五巻の文政二年巳卯春正月續出第四輯四巻の三年庚辰冬十二月
 發販第五輯六巻の六年癸未春正月續出ふけり第一輯と刊行の年よりとあふ
 至る十ヶ年あり然れ毎編と俟々看官渴望せざるはる堂球拉玉の異るは其の
 時好小稱りの今昔を比とゆえおが刊行の書肆が等閑る贏餘を他債の為果と
 本錢續むるふけり新舊五輯の刻板を涌泉堂不賣與ふが第六輯より下續

八友傳第九輯中帙附言

東京名山閣版

刊の書賈更替りて第六輯五卷本輯脚六卷有り十年丁亥春正月涌泉堂が刊
 行せり。第五輯發販の年より中絶あり五ヶ年を経て第七輯七卷の年
 冬十一月稿本既成るのう涌泉堂も亦本錢續むの上帳四卷の書林文溪堂の資
 助ありて十二年己丑の冬十月廿九日小發販せり。當時予のさりとる知る下帳二卷の
 十二年春正月辛くして續出せり。予亦涌泉堂も等閑しと理義と思は
 始より一校閱と一字も作者のせりけり。備書淵人の為諍まを稿本と同かろるの
 多くあり。況七輯發免のよりと報るるも予の例違ふと咎めて云云といひ折書
 林永壽堂文溪堂等為勸解る不怠状とあり。語話數四及びふける。予は聽さ
 んのさすやていふくもるく己のけり。かや程涌泉堂の後輯の刊初微力足るより
 けり。第八輯より七輯まで所藏の刻板を沽却せり。大阪の書林某甲が
 購得りて去ぬたとす。然而第八輯より以下の刊初を文溪堂が購受て
 續出せり。予の本傳新舊の板家扶い江戸大阪と函家ある。第五輯より

下あり至て刊初の書肆の替り。前後都て四名。且の結局に至る。その板分れて七輯ま
 での遙か浪速の舊遺れて予の毫毛も識らぬ。彼地の書肆の藏板より思へど一
 奇といふもの。識者の折眉と擲めて江戸の花と失ひぬ。嗟嘆ありありと歎つた
 遮莫幸い第八輯より下の江戸の書肆が刊行する。文溪堂の所藏する。作者の
 面と起素似り。榮辱得失物皆介る。本傳の限り。是れより有為轉變の速
 ると思ふ足れり。かて第八輯の江戸の書林文溪堂が刊初。天保三年壬辰は夏五月
 二十日の上帳五卷四の巻上下二卷の發販。下帳五卷二の巻上下の四年癸巳春正月
 續出。第九輯上帳六卷の今茲乙未春二月二十日小發販。中帳七卷の今番出
 せり。又下帳七卷の明年丙申の春秋遅く成るとも。秋冬の時候まで必し續出。大圖
 圓ふる。多く欲せかれ。六輯以下の分巻共六十八卷二百二十八回あり。竟る全部さん
 の抑策子物語のかく長き。續む。書の外外の見え。天の作者小憲壽堂借
 きて。筆をさしあつ。廿餘年の久し。飽ともよく堪る。その結局と世の人の

元まほ正の如くうんと命あり時ありて。國圓將お近うんとまある懼し。あるめて。稗官
真利は稱いおけんと思ふも鳥許の所為をわりける。

その書第五輯まで一帙五巻と輯とま第五輯の六巻るの四輯の足りる補へる。
ある第六輯より以下の涌泉堂等々乞ふ儘して或の六巻と一輯と一或る七巻と一
輯とまかて第八輯に至りての文溪堂の需る為の十巻二帙と一輯とま第九輯の巻の
數のまままよく多くる。二十巻と分ちて上帙中帙下帙とま。その第五輯まで如く
每輯五巻るうん。十言輯に至るべし。然ると九輯の約め。文溪堂の好むあれと今や思
へば。もうある八巻陰數の終りへ。下の十あれと十一ふかふと。陰數の終りと。九を
陽數の終りかれば。八犬英士の全傳局と九輯は結ぶ。その所以るはあまか。
吾嘗唐山の釋史と見る。水滸西遊記傳の如く。是大筆の多段と。又も水滸二百
八箇の豪傑その人極めく。史進魯智深楊志武松等全傳開の豪
傑る。小梁山泊入り。よる。その勢は始お似む。俱お軍陣は位むの外。ありとのへともる。

如く況百人者取者の始ありて終り。俗云立滅せざるの稀人又西遊記の云。撒師徒孫
猪沙と足四名の。その人極めて寡ければ。其更相似て。且重復言り。水滸も亦重復あり。
長物語の覺きて。彼重復の瑕疵ある。年来みぐる。筆と把て。是等の苦海に墮落せ。
ま。所以ありけり。と悟る。由る。最鳥許が。ま。説話る。れ。本傳の始より用意とま。
加減あり。迺水滸百人の百と除いて。八犬士あり。又加ふる。八犬女あり。且里見侯父子と。
大と俱お十九人。是と一部の主人公とま。かれ。その人。又。又。その人。寡る。水滸の
ま。西遊の寡る。似る。ぐ。も。あ。の。餘。忠臣義士。は。彼。は。の。者。と。い。と。始。あ
る。終。あり。中途。より。立。滅。せ。者。一。人。と。く。あ。は。と。なり。看官徐。結。局。ま。見。作
者。の。用。意。と。知。る。よ。り。あ。ん。
唐山元明の才子。ま。作。る。釋史。あ。の。法。則。あり。所謂。法。則。と。一。小。主。客。一。伏。線
三。小。襯。染。四。小。照。應。五。小。反。對。六。小。省。筆。七。小。隱。微。即。是。の。主。客。此。回。の。能。樂。の。の。の
シテ。ワキ。の。如。し。その。書。の。一。部。の。主。客。あり。又。一。回。毎。小。主。客。あり。て。主。亦。客。ある。と。あり。客。も

亦主あるる所を以て爲るべき壁象棋の起馬の如く敵の馬を更らんと死に其馬を以て彼を
攻我馬と喪我馬とて苦あり。變化安あを疆りあらん是王客の崖略又伏線と
観測の事相似同トク々至所云伏線の後必出死趣向あり。數回以て明此墨
打と置く。又瀨添ハ下添也。此間のみ去る。後大関目の妙趣向と云
んと。數回前よりその事の起本來麻とて措へ金瑞が水滸傳の評注又縮添ふ作
す。即瀨添とあるト共ふと訓むべし。又照應の照對もの聲言律詩の對句あり。彼
と此と相照し趣向の對と取る。必く照對の重複あり。必く同トカク。重複
作者諺て前の趣向に似る事。後亦至て復出。又照對の故意。前の趣向の對仗
取く。彼と此と照とて聲言本傳第九十回。船虫堀内。牛の角。以て觀せし。第七十
四回。北越二十村。圍牛の照對。又八十四回。大飼現八。十住河。中。數系舟の組敷の第
三十一回。信乃が芳流。閣上。組敷の反對。是反對の照對と相似。同トク々。照對の牛
のく牛の對するが如し。その物同トドければ。その事同トカク。又反對の人の同トドければ。その

事同トドク。信乃が組敷の閣上。閣下。數系舟あり。十住河の組敷の船中。中
樓閣あり。且前。現八。信乃と捕捕んと欲し。後。信乃と道節。現八を捉へん
と。情態光景。太く異ふ。あとの反對と。事此彼相反して。あつて。對仗。做
の。本傳。あとの對。三。枚。筆。の。筆。と。省。地。の。詞。と。後
の。後。の。重。て。い。さ。ん。爲。必。つ。で。稱。人。の。偷。聞。させ。筆。と。省。地。の。詞。と。後
あり。その人の口中より。說出。ま。の。情。作者の筆と省く。分。看官の亦。倦。さ。る
る。又。隱。微。の。作者の文外の深意あり。百年の後知音と。俟。く。是。と。悟。ら。ま。め。ん。と。水
滸傳の隱微。より。李。執。費。金。瑞。等。の。い。は。ゆる。唐。山。の。文。人。才。子。の。水。滸。を。弄。ぶ。者。又
かれども。評。し。ゆ。く。詳。し。隱。微。と。發明。せ。し。の。る。隱。微。の。悟。り。と。七。法。則。ま。る。知。ら。る
あて。察。る。の。の。さ。あ。ん。及。び。ま。る。本。傳。の。彼。法。則。を。做。ふ。と。又。但。本。傳。の。ま。る。と。ま
美。少。年。録。俠。客。傳。の。餘。も。都。て。法。則。あり。看官。あれ。を。知。る。と。子。夏。曰。小。道
と。へ。も。見。る。べ。死。者。あり。嗚。呼。談。何。を。容。易。る。ん。あれ。の。よ。う。の。知音。の。評。し。折。々。答

へてあるが、亦看官の為の注し。

予々毎編の策子物語の寫本に於て彫果の折卷々々、校閱せざるは、刊行の書肆として、性急なる者もあれば、作者のあつた儘の書も且その巻々の已が綴れる文も

あるに眼が執られても忘れぬ、亦幾回も讀復其誤寫ありと心づく、増記の隨に讀むるも、動もまじく檢送して、後悔しく思ふもの甚く、總て列本の書画俱しく誂へ、板下不物と調へれば、必その板下の訛舛あると認る、是か加ふる、刷人の誤りあり、羊頁

十一約するも、真名毎小備訓あり、真名と假名と二約あり、羊頁二十二約するも、文字幾百多しと知む、然るに、眼史、最も急迫しく校閱せられ、檢送せし訛舛、去と事過ゆる、姑園に依本輯上帳六卷、筆工の誤寫あり、と出販の後、見出し、此の正行、當の正儀、小作も、六の卷、一、荷、離壯、離の、歟の、あやまり、筆工の、小、た、へ、校、園、の、折、檢、送、し、あ、の、餘、て、は、の、錯、を、輯、毎、ふ、る、は、の、ぞ、第、一、輯、の、殊、も、

かり、當の本文の、本輯上帳の引、孔子家語と引、有文、事者、必有武備、との、を、誤、く、文、備、小、作、も、又、第、八、輯、の、自、序、の、莊、子、と、引、名、者、實、之、實

とある者、は、字、と、脱、され、是、より、先、も、自、序、の、誤、寫、あり、轉、倒、あり、後、至、て、足、せ、の、い、ふ、せ、し、悔、も、及、び、ぞ、發、販、の、後、の、板、小、埋、材、と、彫、更、る、六、日、の、昔、蒲、十、日、の、菊、也、長、視、榮、る、所、の、様、約、の、書、肆、が、執、り、兼、引、る、等、兩、也、竟、果

さ、ま、り、の、稀、之、遮、莫、その、訛、謬、あり、且、本、文、の、序、目、の、漢、文、の、自、序、の、二、三、頁、の、過、ぶ、ふ、を、校、合、の、由、屈、ぬ、い、ふ、や、と、思、ふ、人、も、あ、ら、ね、と、序、目、の、卷、々、の、稿、ト

果、て、い、と、後、小、綴、り、ぬ、れ、刊、刻、も、隨、て、最、太、う、後、れ、と、本、文、摺、刷、の、折、る、不、急、迫、く、校、閱、志、ぬ、り、熟、讀、重、訂、の、暇、を、二、三、頁、の、物、と、い、へ、檢、送、さ、る、と、い、は、且、出、像、る、ご、不、至、り、蛇、足、の、為、小、動、も、ま、じ、く、作、者、の、画、稿、と、違、ふ、も、あ、れ、と、改、め、画、を、せ、ん、と、あ、く、そ、が、終、り、て、閣、も、多、う、看、官、作、者、の、苦、思、を、知、る、稿、本、の、訛、謬、あり、と、思、ひ、ぬ、稀、る、べ、い、の、人、の、へ、く、書、を、校、ま、る、風、葉、と、塵、埃、も、異、ら、ず、隨、く



八代轉山輯卷七

文藝堂藏

拂ひぬれ。隨く又これあり。書とく執り誤寫あり。況游戲の策子とや。吾亦必く懸念
 せむ。そを知る人を知るべし。む。廢敗毀譽と度外置て。具眼の指摘不儘なるを。
 予が著者一の物の本或合巻と唱る繪冊子のゆりたる板家扶と購求め。恣に
 画と新し。且書名と改め。そを新板の紛し。翻刻し。彌隔々ありとせ。あはれを勸
 善常世物語二国一夜物語化。競丑三鐘ともの。御高本傳前輯の簡端不
 既ふい。近屬又括頭巾縮緬紙衣三巻と重刻。久松山物語と書名と
 改め。出像と新し。せいのあり。その書ハ文化三丙寅年。書賈住吉屋政五
 郎の需不應と。予が綴りたる。今に至る二十許年の春秋と麻苳る舊作を
 ど。知らぬ人ハ惑されて。新板多しと思ふ。且書名の更さ。甚る。交兒の
 所為多し。椀久松山物語と改め。作者の用意とる。知らぬ。是ハ鳥許の點穴
 する。夫椀久の嫖客。又松山遊女。綴その小傳と為るとも。その書命く。命く。命く。命く。
 あら。是と作者の用心とま。か。る意味も。あ。せ。て。放る。更改。の。松子。所云。條。忽。

か混沌と損ふと亦何を異る。只是嗟嘆不堪。ざる。の。又高尾船字文。中本。八寛
 政七乙卯年。予が始めて綴り。策子物語。りけ。い。と。せ。ね。と。拙。て。今。う。ふ。又
 見る。ふ。堪。む。嘔。吐。も。あ。つ。死。の。る。と。去。歳。の。冬。と。重。刻。と。端。像。と。新。と。せ。
 りの。出。り。余。も。その。翻。刻。本。の。再。板。と。さ。る。椀。久。松。山。物。語。の。正。死。世。と。欺。く。不
 優。ま。し。り。あ。れ。俱。作。者。の。重。刻。の。美。と。も。告。告。次。心。画。と。更。或。ハ。書。名。と。更。竊。小。蠅
 頭の。微。利。と。欲。り。欲。人。と。人。と。思。ひ。け。り。比。白。是。賈。賈。の。所。約。を。有。け。り。う。り。
 い。ぬ。る。比。の。再。板。本。を。予。も。閱。せ。り。自。序。の。落。款。の。一。死。の。あり。そ。を。題。於。雜。貨。店
 帳。合。之。暇。と。あ。る。せ。是。る。り。雜。貨。の。唐。山。の。俗。語。と。此。間。の。高。麗。物。の。類。の。り。
 四十餘年の昔とゆふ。予ハ高麗物と驚か。る。便。是。當。年。の。洒。落。と。都。々
 裨。官。者。流。の。肚。裏。の。種。々。无。量。の。意。材。あり。辟。言。雜。化。高。麗。物。の。品。類。取。也
 不。似。似。云。云。と。あ。る。せ。酒。當。時。の。洒。落。と。識。者。の。笑。と。取。る。為。る。れ。も。開。也
 流。約。の。後。ね。て。い。う。か。ぬ。の。さ。る。看。官。疑。惑。ふ。べ。然。件。の。船。字。文。水。滄。林。火

椒録あかきりと云ふ此これ彼かれと撮合とらひあはし。綴つづりあるものなり。四十年前の拙作せつさくを疎文そぶんのくと
 あつたゆゑ。翻刻はんこくし。世よに出いされて。釋しやくの折せせ。習葉子しやくえしを。老後らうごの汝なんが。蹟あとをとく。
 貴たか弄ろうせし。異いる。恥ちのあれ。翻刻はんこく本ほんの。原刻げんこくと文ぶんの錯さくへやもる。命めいと
 予よの。み。小懶せうなん。古こ兒に。琴しん。嶺りやう。在ざい世せいの日ひ。今いま。茲こゝの。春はる。二に。月げつの。比ひ。や。あり。命めいと
 舊本きうほんと。比ひ。較けう。さ。せ。了りやう。小誤せうご。脱だつ。あ。る。大おほ。違ちがひ。の。ひ。あ。り。高たか。一いつ。僻へき。め。ど。も。今
 疎文そぶんと。い。る。を。せん。看官くわん。あ。れ。を。思おもひ。ね。か。又また。大おほ。師し。河原かゝら。撫ぬ。子こ。話わ。の。合あ。合あ。卷くわんの。繪え。策さく
 子こも。予よが。舊作きうさく。あ。る。今いまより。三十二年。已い。前ぜん。文化二年。乙丑いつしうの。冬ふゆ。耕書堂かうしやうだう。刊かん。行かう。せ
 去い。を。今いま。亦また。画え。を。更さら。重刻じゆうこく。し。新板しんぱんの。如ごとく。あ。る。彌爾みやに。の。あり。と。思おもひ。足たり。は。も。作
 昔むかし。小生せうせい。口くち。さ。り。けれ。思おもひ。ひ。ける。人傳ひとでん。小抄せうしやう。あ。る。の。餘あま。も。予よの。い。ま。と。あ。る。ぬ。鳥とり。許もと。の。重刻じゆうこく
 さ。そ。あ。る。む。五ご。在ざい。世せい。不ふ。ま。さ。書肆しやうし。あ。る。怒いか。る。の。か。く。の。如ごとく。あ。る。ん。後のち。の。い。ま。と。あ。る。ぬ。そ。も
 浮う。る。名なの。所ところ。以もつ。て。い。あ。れ。ど。名なと。賣う。ら。る。て。さ。う。は。さ。け。れ。近世きんせい。明めい。和安わあ。永年えいねん。間風まかぜ。來
 山人さんじん。鳩はと。澤さわ。が。戲墨ぎぼくの。策子さくし。太おほ。く。世よ。不ふ。れ。る。その。身み。後のち。不ふ。至いた。り。て。も。偽作ぎさく。せ。り。の。ま。

く。今いま。ど。の。昔むかし。と。か。り。へ。い。は。う。へ。の。ま。あ。る。ざ。り。け。は。あ。る。虚名きよなの。昨非さくひ。を。知し。り。て。
 嗟あは。歎な。の。あ。ま。り。懐なつ。と。述の。ぶ。る。吾われ。多おほ。せ。長なが。く。反歌はんか。あり。あ。も。亦また。要い。る。を。ま。ま。み。る。が。録ろく。と
 の。箴しん。と。ま。歌うた。の。い。へ。く。
 あ。ご。一いつ。世せい。の。い。へ。ご。一いつ。世せい。と。る。あ。ご。一いつ。名なの。何なに。を。あ。る。を。渡わた。す。が。あ。る。あ。る。水みづ。
 ぐ。あ。ら。び。る。筆ふで。と。す。み。田のり。の。い。ご。と。ん。人ひと。あ。ら。う。と。あ。ご。て。夏なつ。の。夜よ。に。あ。る。あ。の。
 矢や。ま。ご。の。外と。子こ。杖つゑ。も。ひ。ろ。く。を。そ。れ。箱はこ。さ。び。る。ま。ま。み。あ。ら。う。や。似に。け。も。あ。ら。う。ね。の。
 真まこと。合あ。ふ。あ。ら。ぬ。あ。ご。の。い。へ。に。さ。せ。て。あ。ら。う。も。あ。ら。う。け。り。あ。ら。う。ち。の。ひ。ま。び。の。神かみ。の。
 何なに。や。ま。あ。ら。ぬ。ま。ま。ご。の。あ。ら。う。と。あ。ら。う。の。い。へ。に。さ。せ。て。あ。ら。う。も。あ。ら。う。け。り。あ。ら。う。ち。の。ひ。ま。び。の。神かみ。の。
 山やま。畑はたけ。の。実み。け。あ。り。と。い。ふ。を。あ。ら。う。あ。ご。の。人ひと。あ。ら。う。ま。あ。ご。の。名な。と。い。ふ。あ。ま。ご。の。あ。ら。う。
 あ。ら。う。ま。あ。ご。の。い。へ。に。さ。せ。て。反歌はんか。
 か。ら。れ。て。も。る。や。あ。ご。の。い。へ。に。さ。せ。て。あ。ら。う。の。ま。ま。ご。の。名な。と。い。ふ。あ。ま。ご。の。い。へ。に。さ。せ。て。
 天保六年てんぽう六年。と。い。ふ。の。い。へ。に。さ。せ。て。あ。ら。う。の。ま。ま。ご。の。名な。と。い。ふ。あ。ま。ご。の。い。へ。に。さ。せ。て。
 蓑笠すゐがさ。笠がさ。漢かん。隱いん。





南總里見八犬傳第九輯中套總目錄

第七百四回

富山之餘波

謁老侯親兵衛訟神助

驚奇特刺客等各歸順

第七百五回

富山之餘波

名山有靈枯樹復花

逃客無路老俠獻俘

第七百六回

大山寺春宵

牽青海波景能自稻村來

犯黑闇夜曼讚信赴館山

第七百七回

館城之着落

犬江親兵衛活捉素藤

里見御曹司優還陣營

第七百八回

館城之着落

義成告仁寬刑

貞行謁王奏克

第七百九回

妖怪之卷

八百尼山居誘引敗將

濱路姫病牀被冤鬼魘



第十百十回

妖怪之卷

反問術妙椿遠犬江

妖書孽仁辨別妙真

第一百十一回

館山後卷

妖尼庭聚血兵

素藤夜襲舊城

第一百十二回

館山後卷

稟君命清澄伐再叛賊

旋機變素藤易牛狼囚

第一百十三回

妖怪後卷

三匠瓶醒里見侯

一級首愆南彌六

第一百十四回

釋疑之卷

義俠瘞元遺郭號

神靈懲魔全處女

第一百十五回

遭際之卷

前面岡大刀自救孝嗣

不忍池親兵衛釣河鯉

八犬傳第九輯中套目錄終中套下套各七卷共十四卷刊行





義顯於衰
世之國
孝出自忠
信之家
頼馬齋叢
画

政木大成嗣
画

安西出来人
画

荒磯南弥六
画

風流の安房の
あゆみのうらみ
志をみちねらむ
りてをあくがりの
去同居士

大傳七母家

再下

大傳七母家

八代信長轉巻七

大傳七母家





浪浪荒川智計廣言行
不濁稱清澄 愚人圖

荒川兵庫助
清澄

浦安牛助
友勝

堀田大守
清

八代傳九郎卷二

六下

八代傳九郎卷二



かみれ浦
秋のまき居ふるわれ
あつはとのまき居月乃
うけ

雕窩老人

菅屋八郎
長能

奥利狼之助
出高

澤木九郎
吉原

八代傳九郎卷二

八代傳九郎卷二

懿哉八犬之英士。起八方也。妙哉一顆之靈玉。護一身也。仁義禮智。救柔挫剛。忠信孝悌。補君討讎。抑離散。有時行會。有日八士不盡。簪者殆二十餘年。終同歸一州。而威名不朽。然當時載筆者。未具粵肇有演義書。是義笠翁所編述。筆端波瀾。與彼水滸三國演義。拮抗自是。書一出于世。而人人方知犬士所以為犬士。可謂奇且盛矣。余叨賦拙詩。以為證詩曰。

犬姓俊雄都八人。俱惟里見股肱臣。乾坤到處曾無敵。蹕蹕義翁神史陳。

琴籟閑人題

南總里見八犬傳第九輯卷之七

東都 曲亭主人編次

第四百四回

老侯小謁一親兵衛神助と訟ふ
奇特小驚々刺客等各歸順也

再說那檻杵兒們（こま）の（て）手（て）槍（やり）と（し）閃（ひら）々（と）義實主（よし）と（し）合（あ）綱（な）て（し）敵（た）果（は）え（し）て（し）聞（き）く
折（し）る（と）思（おも）ひ（し）る（と）は（し）樹（き）間（ま）より（し）只（ただ）見（み）る（と）一（ひ）個（つ）の（と）大（お）童（と）男（こ）大（お）江（お）親（お）兵（お）衛（お）仁（お）と（し）名（な）告（つ）て（し）呼（よ）び（し）禁（し）め（し）る（と）
突然（と）と（し）走（は）り（し）出（で）来（き）る（と）面（おも）魂（たま）足（た）柄（た）山（た）小（た）生（た）育（た）る（と）又（し）那（お）酒（お）田（お）公（お）時（お）る（と）ど（し）の（と）童（お）話（お）の（と）せ（し）え（し）る（と）
桃太郎（もも）の（と）あ（し）の（と）と（し）驚（おど）ろ（し）と（し）檻（こ）杵（し）見（み）們（ら）の（と）勢（いき）ひ（し）忍（に）地（ぢ）胆（ぢ）落（お）て（し）他（た）の（と）心（こ）麻（ま）と（し）心（こ）ろ（し）小（こ）
憶（おも）ひ（し）俱（た）に（し）兵（へ）兵（へ）と（し）遠（と）巡（ろ）し（て）七（しち）左（さ）右（う）の（と）有（あ）敷（し）糸（いと）の（と）敷（し）も（し）蒐（し）り（し）殆（た）ど（し）然（しか）と（し）續（つ）敵（た）を（し）討（う）つ（と）
て（し）思（おも）ひ（し）回（か）せ（し）諸（しよ）聲（こゑ）高（たか）く（し）噫（あ）ひ（し）咄（は）ひ（し）小（こ）猴（さ）子（ま）奴（ら）の（と）林（はやし）と（し）刈（き）り（し）牛（うし）と（し）鞭（むち）を（し）狗（いぬ）と（し）走（は）り（し）兎（うし）と（し）走（は）り（し）
趕（か）り（し）身（み）の（と）相（あ）應（お）じ（し）か（し）る（と）命（いのち）を（し）知（し）ら（し）似（に）て（し）非（た）胆（ぢ）勇（ゆう）由（よし）り（し）仇（あ）の（と）助（すけ）劍（けん）と（し）息（いき）絶（た）る（と）折（し）

後悔まき快敷く付せと動揺ゆきて、其勢を憑ひ假猛者槍を拵て左右より咄と
嘯ひて、二十七十一小競、蒐れ親兵衛の毫も噪が身と反して、素樸の棒を敷き
拂ふ向ふ前を奮勇、剛姚當るべし、楹杵見毎に避易く、皆竿槍を
打折れ、刀抜く間も奈麻与民の腕前、経肩腰骨を敷き、惱されて平張伏するそが
中、一個の楹杵見、聊本事あるものるべし、連り小槍をうち、閃めりて刺んと、杖むを
親兵衛へのくし、受任て邪と聲をて、丁と敷き、劇し、純棒の裾中、這も亦槍を
打折れ、餘る棒、小肩尖を敷かれて、痛楚不堪、ざらけん、苦と一聲叫び、果て、小まん
甘脚踏住めて、樹の間、潜りく逃走と、親兵衛透き、趕ふ、け、往方も知、ま、り
於、冷笑ひ、趕捨て、舊所、小、の、ま、つ、敷、小、楹杵見四名、腰、準備の、藤、に、受、り、く
威、轟々と、縛、縛、ゆ、備、の、松、敷、系、住、り、兩、祖、一、袖、を、斂、め、裳、下、一、塵、を、拂、ひ、て、義、實、王、の
身、邊、亦、ま、り、額、衝、れ、跪、坐、て、稟、を、せ、り、鳥、許、す、う、い、ふ、も、我、姓、名、の、豫、を、の、聞、言、ふ、所

このあ、小、河、下、總、市、川、の、船、長、老、ゆ、り、山、林、房、分、獨、子、也、初、名、の、真、平、も、又、大、八、も
喚、れ、る、大、江、親、兵、衛、仁、を、い、君、け、の、厄、難、我、恩、神、の、誨、も、て、豫、知、り、の、い、ふ、聊
先、途、の、達、ま、り、せ、て、見、參、入、り、ま、り、又、是、神、慮、の、馮、の、君、臣、二、致、の、時、日、來、寇、の、輒
對、治、せ、て、死、身、の、恙、す、備、を、と、飲、く、と、の、辨、説、さ、し、鄙、を、と、大、人、備、を、け、る、進
止、の、世、の、憑、を、く、を、え、け、り、介、程、の、義、實、王、の、思、ひ、け、る、楹杵見、小、伴、當、二、名、を、射、て、小、れ
已、と、い、ふ、も、下、を、み、つ、く、防、戰、ん、と、刀、の、柄、の、多、く、楹杵、一、も、あ、る、一、個、の、少、年、大、江
親、兵、衛、仁、と、名、告、て、樹、立、の、其、陰、より、頭、れ、出、瞬、間、五、個、の、寇、を、敷、伏、せ、趕、ま、り、武、藝、勇
敢、人、柄、を、思、ふ、優、る、梓、は、且、驚、且、訝、り、と、ち、目、成、す、と、い、へ、り、禍、鬼、を、く、ち、讓、ひ、る
這、少、年、の、豫、を、く、大、士、の、一、人、大、江、親、兵、衛、仁、と、名、告、り、と、既、小、分、明、る、め、り、疑、敷、い、ま、り
霽、ね、を、依、り、備、る、巨、樹、の、株、の、尻、より、ち、掛、け、眉、根、を、頻、單、め、左、見、右、見、て、原、來、和、郎、と、妙
真、孫、と、い、ふ、大、江、氏、那、大、の、親、兵、衛、を、一、次、生、れ、ま、り、仁、の、字、の、玉、を、持、り、一、甲、斐、の、を

親房は優りもさへん大士の隊小入の身死佳々の瘧子ありと妙真并照文們の噂は縁
神籙と云ふとて往方も知る事あり六稔以前の事なりと年四の秋ある事
然和郎の事なき今茲九方と云ふ思ひは似き身長約莫三尺四五寸あり筋骨さ
へは遅く凡庸の少年の十六七歳ありの事も及ぶ武藝勇力單身ありて五個の寇小
當りて物ともせむ四個と生拘一人と戦走せし和漢稀多神童と云ふれ加以年
居人迹絶て浮世遠絶徳深山は誰鞠親て人と成らん訝しき故にその甚麼を
と問れて親兵衛然に疑ひの理り既不知れまらり如く小可純は年四の秋采月の
初旬ありあり船九郎と云ふ叫做たはり人の相おせられ命危り折不測は神女の
擁護ありて那舵九郎と誅戮せられ這身の神女は擁護れて這山は領て置れり伏姫
上の墳墓あり出屋と宿と云ふ日よりと姫上の神靈は夜と云ふ昏と云ふ養れまらり
いと初と宛夢不似く思ひ辨と云ふ事なりと成る隨折々神女の誨ありて

我うと知るの事ぞ大母妙真の那時候より君の御恩と稟まらりて恙もあらず今
もわづ瀧田の御城内に在る支の顛末外伯父犬田小文吾悻順の上りたる之餘同因
果の六士大塚大川大山大飼大村の流浪窮死昨日佳々の事ありはり筒
様々ありとあれと七士們が六稔以来の履歴動靜その折々小事も漏れ神女の
告さるるひ々瞭然とて那人々の備小立て看るごとく知ると云ふと云ふ然に之食四
時の衣皆姫上の神通力にて那里より取寄せ任養れまらり又只我身軍小
あらず這年来同宿の人の帮助もいへん迹絶る深山に在りても徒然と云ふ事あり
年毎長伸て既亦肉なき我々怪しき事最も大なる日毎神女の賜り
去仙將不奇果の故る欲理として論と云ふ神變奇特といふ事然に神女の御恩
徳の故奉る小皇もいへん日讀書ら馬鞍の劍文学武藝何れと云ふ皆教さるる
去六稔以降修煉せし本事る事ゆゑもこれ神女の日暮我々と共侶の岫崖

あ在さまか。要め折れ出頭。要め折れ見えぬを徳而今朝も姫神の又勿然
と立頭れて小可們不宣不宣。けは徳々の左側。我父絶ふ西三個の伴當と領。我墳
甚と見んとみかろ山踏し。這頭へ來ぬとあるんその折不測の寇あるに犯しあらん
とそをまかぬれ親兵衛のあろろとゆ。時分と料り。件の寇と對治し。我大人の見参
入りなれ這餘のめり箇様々々と叮寧に宣示しゆ。這箇一口の短刀。這錦繡の襦
衫一領。小可も賜り。又宣す。その懐劍。我生前の身と放さるもの多。截味尤覺
あれ。そのりく汝が身の護ませ。錦繡の襦衫。我もろ。昨宵縫うめを。汝も八
犬士の一人多。は我大人初見参。その鹿袴の衣の。身の下。下は鄙備さ
らそむ。も取まる。抑你と同因果。七犬士の黨。我生做せ。子小異る。宿因
深。ゆ。あれ。孰と疎。思ふ。然。彼他們が窮死。毎。立形。小。添。て。救。る。こと。死
め。る。你。の。特。の。薄。命。也。仙。折。二。親。と。喪。を。刺。必。死。の大。死。あり。六。見。過。く。る。の。

その窮死。救を。這里。領て。多。五六。稔。養。育。し。像。の。こ。生。育。し。只是。仙。の。身
單。悲。し。ぬ。の。思。ふ。ま。わ。る。親。房。八。も。安。房。の。使。民。杉。木。撲。平。が。後。小。し。て。その。身。殺。と
仁。と。做。し。る。義。侠。の。あ。り。あ。る。と。て。その。子。の。料。を。仁。字。の。靈。玉。得。て。八。犬。士。の。隊。小。さ。る
故。を。う。夫。仁。義。八。行。の。人。皆。天。より。禀。る。所。災。は。賤。誰。も。か。五。常。八。行。の。心。を。ん。や
然。けれ。ぬ。世。の。庸。人。の。通。て。人。慾。の。私。小。迷。て。遂。は。八。行。と。執。喪。さ。る。め。の。稀。を。信。ま。さ。る
世。の。億。萬。人。小。捷。を。五。常。八。行。と。做。ゆ。ん。と。易。く。ね。ど。就。中。仁。を。の。孔子。も。願。く。許
さ。す。の。素。是。天。と。その。徳。と。考。へ。た。故。に。け。り。自然。と。天。と。叫。做。し。人。小。在。り。て。仁。と。の
你。の。親。の。義。侠。の。あ。り。て。仁。一。字。と。ゆ。る。と。其。の。名。と。仁。と。喚。ぶ。れ。も。我。も。そ。の。徳。と。天
と。な。り。く。做。し。ぬ。ん。や。縦。至。仁。に。至。る。も。婦。人。の。仁。小。做。る。を。今。より。勉。て。投。生。の。好。ま。や
忠。恕。惻。隱。と。心。と。せ。事。足。る。ん。世。小。武。夫。の。業。の。も。大。刀。と。帶。弓。筋。前。と。合。て。君。父。の。與。小
仇。と。防。身。と。も。護。る。の。あ。れ。と。只。當。前。の。敵。と。敷。て。降。る。と。殺。さ。る。と。走。る。と。捨。て。

人と征するは徳どりのせし。則忠恕の美は稱せ。仁と父名を蓋さる。頃者我任
る冠者我通窮厄あり。久く寇令を寵れて。今も館山の城内に在り。其の故も我
成夫婦。及我大人の最大。胸安らざる。大人の登山も。其の美あり。先達
高峯を寇とて。對治して。更か又館山へ赴いて。那素藤之降して。我任義通を
極つて。大人と義成夫婦の真愛。苦と尉あまわさる。六稔休と養育する。我も面談
起ま。いふ。是に。是は。既。世の縁盡され。今より永く別れる。奴等怠る。心
るべし。勉め。勉め。と。練返しく。諭して。自餘の者も。云と。別と告ぐ。又忽
然と降。聚る雲。神躰れて。極滅を似く。亡び。迹も香氣。馥郁と異。花降
て。音樂。翠天。少え。峯上。残る白雲。風のまわく。あま。登時。小可哀
慕。あは。堪。母。別る心地。して。外視。思。て。蹉。跎。う。ち。泣。て。の。ひ。を。同宿の
甲。乙。小。只。管。諫。慰。め。れて。あ。な。く。我。小。回。る。の。う。ち。幾。の。時。ま。と。た。ん。今。も。心。の。悲。を。

然とと本早のひびか。倭くも人深あふ。され。君の與小寇。帝を。神女の誨。侍ら。
と思ふ心のそれて。前より這頭。小樹。躰れて。御登山。待ま。り。小果して。神女の。小現。
違つ。君。小寇。做。と。隘。心。見。あり。と。四。個。と。生。拘。れ。れ。鈍。や。一。個。と。漏。せ。折。る。不。追。
稠。集。捉。ま。り。あ。は。り。つ。も。あ。は。り。一。小。走。り。捨。よ。と。教。ゆる。神の。隨。意。迂。捨。する。
用意。是。の。を。な。す。那。奴。們。を。對。治。せ。し。始。より。一。及。ま。り。其。棒。を。總。く。數。
仆。し。擗。捕。り。ゆ。ひ。一。寇。る。く。も。奴。不。棄。し。て。殺。す。と。その。所。乃。は。七。大。士。
小可。が。所。在。と。年。來。尋。難。て。八。人。具。足。せ。ん。折。る。と。六。人。參。り。と。と。固。辞。ま。ら。し。今。も
他。郷。小。流。寓。る。その。義。我。の。信。言。は。ぬ。志。と。佳。と。神。女。の。告。さ。せ。あ。あ。は。り。事。
詳。に。知。る。の。う。ち。然。と。も。我。を。言。報。中。ん。ゆ。も。心。苦。く。ゆ。ひ。小。這。身。單。那。
人。々。小。先。と。今。見。參。入。り。不。思。議。の。計。會。併。人。力。人。智。の。と。今。夫。現。の。の。
ら。皆。是。神。女。の。神。謀。ゆ。と。君。小。美。ま。は。る。寇。大。聚。對。治。せ。れ。て。我。身。の。顛。

未送もろく。少えあけぬ。意外の執。何哀る。又これ。優。任。程。御曹司。極
擢。御。念。尉。め。ん。の。美。御。心。安。下。う。ち。も。任。さ。め。の。と。
言。を。詞。の。委。る。過。去。來。の。さ。ふ。前。後。文。系。の。物。と。ひ。宛。水。と。流。き。似。く。辨。論
義。の。亦。忠。の。現。馬。心。の。勇。士。の。嫩。生。是。八。大。士。の。隨。一。と。い。り。で。も。あ。る。相。貌。才。学
自然。と。備。言。家。傑。の。心。術。言。語。頭。て。思。ひ。け。る。の。と。も。我。實。主。へ。つ
づ。と。所。々。連。り。不。駭。嘆。と。る。月。所。隨。不。疑。の。胸。う。ち。豁。け。合。み。た。れ。る。事。の。妙。妙
大。く。も。も。腰。を。扇。子。と。披。合。て。颯。と。推。啓。に。親。兵。衛。を。う。ち。あ。は。れ。は。宜。き。適
愛。死。後。生。る。か。る。言。旨。意。表。し。ま。る。と。和。郎。が。真。末。奇。る。哉。伏。姫。の。世。ふ
稀。る。女。俠。小。と。思。ひ。よ。身。後。小。神。靈。信。ま。て。灼。然。中。て。功。績。ヨ。る。和。漢。不
倚。あ。べ。や。願。求。和。郎。が。六。槍。の。程。小。最。大。な。る。と。現。仙。境。小。生。云。月。て。神。將。水
奇。果。と。旦。夕。ふ。と。た。け。る。故。る。ん。を。れ。あ。る。故。の。く。奇。人。と。和。郎。が。要。旨。小

帶。短。刀。の。我。詔。り。る。伏。姫。が。終。焉。も。身。を。放。ま。命。根。と。悍。く。断。し
東。西。を。れ。當。目。姫。の。亡。骸。と。傳。不。極。木。斂。め。復。蘇。看。る。不。思。議。と。裕。と。云。恰
と。云。因。の。縁。あり。證。据。あり。身。が。那。瘧。も。あ。る。ん。信。れ。和。郎。が。よ。の。搗。鬼。さ
ぬ。と。知。る。不。足。れ。り。今。何。を。疑。ふ。餘。の。餘。も。多。く。這。那。と。思。ひ。合。ま。る。と。あ。れ。も。急
ぐ。た。る。と。あ。れ。と。後。小。を。解。示。さ。る。宜。末。姫。の。孝。順。を。這。八。大。士。の。一。人。を。我。火
厄。と。救。ひ。る。神。力。不。可。思。議。感。深。く。是。不。就。て。も。更。不。又。痛。と。思。ひ。兩。個。の。伴。當。銷
船。員。六。小。水。門。目。の。寇。の。獵。箭。前。小。窮。所。を。射。さ。て。忽。地。命。を。殞。し。け。ん。惜。む。べ。し。と。嘆
息。し。つ。悵。然。と。那。亡。骸。と。さ。る。あ。る。親。兵。衛。尉。め。稟。を。く。現。伴。當。們。が。受。た。矢
傷。非。如。穴。窮。所。あ。る。と。も。毒。竹。則。ま。て。を。ひ。つ。の。介。ら。只。一。箭。也。呼。吸。絶。言。も。宜。末。以
あ。の。遮。莫。小。可。幸。神。女。の。授。け。あ。ひ。る。回。生。起。死。の。神。藥。あ。る。必。そ。の。效。觀。面。を。活。せ
と。い。ふ。と。う。と。所。先。や。試。ひ。ん。と。い。う。と。身。を。起。て。矢。傷。兒。の。身。邊。不。立。と。兩。個。の

矢傷とよく見る。貝六郎が死に至るまで。為林楚と握持する。義實王の刀あり。その命を放
ち。塵を拂ひて。捧げ返す。返す。義實王の受合。腰を挿副。ひける。信て
又親兵衛へ。腰を吊る。薬籠より。那神薬と幾粒。遠く。摘出して。啜り。矢
傷。見たり。身の中。る。箭を。抜。出。て。這。那。共。の。瘡。口。に。薬。を。塗。着。推。容。れ。て。閉。る。
牙。と。推。開。せ。り。餘。る。藥。を。沃。け。入。る。石。滴。と。掬。ふ。療。養。す。の。届。た。る。進。退。精。妙。
兩個。と。俱。不。被。起。し。背。を。四。卷。握。り。死。せ。り。と。又。又。貝。六。目。の。神。菜。胃。中。小。下
ると。軀。を。忽。地。不。蘇。生。り。と。眼。を。閉。じ。息。を。吐。け。一。霎。時。悽。然。と。な。る。氣。力。を。盡。す。我。の
復。り。て。痛。楚。も。の。ぞ。ぞ。不。け。ん。共。侶。よ。う。ち。驚。死。て。恙。多。り。主。と。又。又。親。兵。衛。と。生
口。の。懸。心。見。們。を。さ。す。り。今。や。我。と。怪。む。ま。ま。不。相。救。ひ。て。慌。し。主。君。の。身。邊。に。我。朝
ひ。共。侶。不。稟。ま。さ。る。臣。們。の。嚮。不。寇。の。獵。箭。前。射。付。ま。れ。し。と。知。ま。る。の。其。後。の。事。を。覚
え。不。介。る。不。這。一。少。年。の。姓。名。の。人。の。噂。の。豫。より。知。り。し。那。八。大。士。の。隨。一。人。大。江。生。の

折もよく。君の先途不達。おぼせ。那。懸。心。見。們。と。四。名。ま。ま。生。拘。り。る。事。の。趣。且。姫。神。の
靈。驗。實。助。年。來。那。身。を。這。頭。不。置。れ。て。人。と。成。あ。り。と。和。漢。今。昔。未。曾。有。の。奇
談。耳。不。入。り。心。不。通。し。て。一。事。も。漏。さ。ま。さ。知。り。し。り。覺。て。の。今。も。記。憶。せ。り。信。り。一。程。不
か。ま。る。大。江。生。の。介。抱。也。蘇。生。り。て。身。の。と。安。く。矢。傷。も。多。く。愈。不。け。ん。既。不。起。居。不。自
由。と。ゆ。る。勇。士。の。帮。助。の。伏。姫。神。の。神。力。不。し。と。ひ。け。ぬ。ゆ。か。る。大。奇。大。幸。最。も。惶。く。い
と。稟。ま。を。義。實。王。ち。听。ひ。て。原。來。若。們。身。の。付。ま。さ。も。心。神。去。く。有。つ。る。を。知。り。る
欽。开。も。亦。奇。之。且。其。の。矢。傷。の。立。地。も。愈。し。の。逆。伏。姫。が。這。親。兵。衛。不。授。け。し。と。神。菜。の
女。不。漏。れ。り。曩。不。義。通。の。伴。當。們。が。多。く。矢。石。不。傷。ら。れ。て。一。旦。命。終。り。し。稻。村。の。城。お。わ。て
還。さ。れ。て。甦。生。の。奇。特。あ。り。け。り。と。爲。神。の。祐。不。し。を。併。親。兵。衛。の。介。抱。さ。し。い。ふ。事。
よ。あ。不。及。不。快。快。快。と。仰。目。貝。六。と。俱。不。親。兵。衛。お。う。ち。對。ひ。て。額。を。死。恩。を
稱。へ。欽。ひ。を。舒。て。又。又。我。們。の。那。箭。也。共。不。命。の。終。る。と。惜。む。不。足。ら。ぬ。と。云。ふ。先。侯

恙す。悔さ。千遍悔も及んぬ。然るに和殿の帮助の依りて。君臣を異の幸福あり。短死
詞不盡。か。洪因。お。その。親兵衛。听あ。首の口誼。益益。我身何
等の功あらんや。皆君侯の洪福也。神女の真助顕然。御向。稟を。事の。く。刺客
た。這。廬。見。們。が。来。歴。責。問。さ。り。意。不。館。山。の。城。内。より。素。藤。が。か。り。る。刺。客
あ。わ。ん。ぞ。ん。と。又。目。と。見。六。郎。の。然。々。と。點。頭。て。拷。問。の。さ。も。咱。們。而。個。不。任
ま。の。ひ。て。く。ら。い。も。共。侶。不。身。と。起。し。て。樹。枝。と。折。て。鞭。と。し。て。敷。置。け。し。廬。見。們。を
鞭。撻。責。んと。立。鬼。も。廬。見。們。の。驚。慌。て。跪。坐。諸。聲。揚。て。や。ま。る。久。々。と。責
られ。も。少。え。あ。げ。ん。既。不。推。量。せ。れ。ど。我。們。の。素。藤。と。一。味。の。め。で。い。へ。ど。然。と。来
歴。不。あ。わ。ん。ど。且。鎮。り。て。少。め。の。ま。と。叫。ぶ。と。義。實。ら。ち。听。ひ。て。あ。く。ん。出。せ。住。り。て
徐。不。言。と。書。き。さ。と。仰。す。自。貝。六。と。兼。り。ぬ。と。成。す。左。右。不。別。り。て。跪。坐。す。登。時。件。の。廬。見
兒。們。の。頭。立。る。者。と。不。一。に。兩。個。が。先。陳。ま。る。在。下。の。故。の。當。國。の。一。郡。司。安。西。三。郎

大夫景連が再任。安西出来。介景次と叫。彼。の。め。で。い。と。名。告。れ。ば。又。一。個。か。ら。あ。る。在
下。も。亦。昔。年。老。候。は。討。滅。さ。れ。る。麻。呂。小。五。郎。信。時。が。同。宗。で。麻。呂。復。五。郎。重。時。と
叫。彼。ま。の。然。に。景。連。信。時。の。滅。亡。の。比。へ。我。們。が。親。病。死。て。自。他。孤。兒。な。れ。ば。由
縁。の。人。の。堆。り。ら。れ。て。悄。々。上。總。へ。走。り。つ。夷。滿。の。番。善。村。に。落。住。り。て。世。に。民。間。不。疑
たり。小。墓。田。權。頭。素。藤。が。館。山。の。城。ま。る。より。安。房。四。郡。の。共。舊。領。主。神。餘。麻
呂。安。西。の。子。孫。あ。ら。ぬ。稟。出。下。の。扶。持。せ。ん。と。尋。る。よ。の。少。え。我。們。而。個。神。餘。の。兒。孫。共。不
館。山。に。赴。り。て。来。歴。を。演。家。譜。を。捧。げ。て。仕。ん。と。請。ひ。し。素。藤。終。に。對。面。し。て。館。城
内。に。留。め。扶。持。せ。ら。れ。る。管。待。通。て。等。兩。を。至。宿。賓。客。の。礼。を。り。て。月。俸。を。の。餘。は。東。西。を。も
ま。く。宛。め。られ。我。們。心。を。傾。け。て。い。う。恩。義。不。報。ん。と。思。ふ。ゆ。も。似。せ。素。藤。の。慢。不。酒。色。の。荒
ろ。よ。の。民。を。虐。は。本。者。侵。と。極。め。て。又。我。們。を。さ。さ。る。と。禄。を。減。格。を。貶。て。奴。僕。の。像。に。趕
使。る。と。い。は。朽。惜。く。思。ふ。め。ら。外。の。よ。の。岸。も。ま。け。れ。ば。ち。よ。由。去。ら。で。在。り。け。は。程。不。素。藤



大傳九郎

十五

任をせしめ
 四刺客
 乃ち
 聴客

うい六郎



大傳九郎

大傳九郎

まろん

まろん

まろ五郎

出来介

おち八

猛の逆謀あり。縁故の國主の息女濱路姫を取んと欲り。宿望稱の執念深ま
 へ。國主を恨みて去歲より伺く時とぞ。計策を旋らして義通君と合々奮め。國主の
 勢を引受てのまゝ勝負を分ざりし。是世人の知る所今亦具ふ。亦及も。任而
 素藤の如く。比我們を内室招き。其く其く。汝達瀧田小赴。義實と狙撃果
 事。事の潰れ義成と。較捕んとい。日勿り。然り。然り。房總二國。我嘗ふ入り。汝
 達這回大功あり。安房四郡と。數屋與へ。各一郡の領主。做さん。甚麻。公の。之と。よ
 見やとて。亦他。更も。く。憑れ。く。我們。然。準備。其夜。城。内。と。潜。入。て。當。國。小。赴
 死。る。同志。の。甲。乙。純。五。名。本。月。の。初。旬。より。瀧。田。の。城。下。と。徘徊。て。潜。入。て。欲。せ。り。つ
 ども。城。郭。總。て。堅。固。と。の。ま。便。宜。と。ら。り。く。老。侯。け。の。未。明。より。大。山。寺。へ。參。詣。の。風
 聲。城。下。の。時。と。ら。り。く。斷。然。て。像。の。ま。準備。と。り。迹。を。跟。け。去。向。と。料。り。て
 狙撃。ま。く。欲。せ。り。微。行。と。ま。り。せ。ども。五。六。十。個。の。伴。當。あ。れ。左。右。を。く。い。り。と。下。り。か。り。奈

去。と。思。ひ。難。一。年。來。這。頭。の。山。河。の。水。炭。淵。を。做。去。り。入。迹。久。く。絶。了。り。の。あ。る
 日。猛。可。水。落。て。沸。き。小。易。く。と。穿。え。り。く。老。侯。馳。て。登。山。あり。息。女。伏。姫。の。墳。墓。を
 亦。向。き。と。て。伴。の。蒼。隸。が。罵。り。と。洩。す。り。心。勇。ま。て。間。道。と。走。り。先。も。て。快。這。回。峯。の
 陟。り。來。り。那。里。の。樹。蔭。小。埋。伏。し。く。悄。々。地。に。准。備。の。毒。箭。を。り。伴。當。二。名。と。射。て。仆
 同。ト。箭。局。小。老。侯。と。脱。し。せ。と。彎。固。め。二。張。の。弓。強。い。忽。然。と。斷。れ。て。役。次。達。と。近
 ぞ。見。最。も。怪。し。の。ま。り。却。已。ば。深。あ。り。更。不。准。備。の。竿。槍。を。り。推。合。稠。て。數。人
 と。す。折。候。不。測。の。幫助。も。來。り。咱。們。四。名。の。生。拘。れ。一。個。を。酷。く。惱。み。され。辛。く。逃
 亡。れ。も。料。る。小。痛。楚。堪。む。と。遠。く。の。山。々。に。現。現。と。這。少。年。の。勇。力。武
 藝。の。億。萬。人。の。捷。れ。の。三。ふ。ひ。の。羊。來。神。女。の。冥。助。も。り。て。任。意。深。山。小。人。と。成。り。く。塊
 談。奇。話。と。側。面。を。身。の。非。と。悟。り。く。慚。愧。後。悔。世。の。是。流。季。子。不。及。と。争。ひ。た。神。靈
 冥。福。併。老。侯。の。賢。明。仁。義。の。俊。德。を。今。茲。留。害。と。轉。し。て。這。祥。瑞。不。逢。す。り。あ

然るに昔年景連と信時の滅亡の賢を媚きて邪計を行ひ非義の利を以て
 所以に老侯の罪をばりし我理義を暗ければ只仇とて思ひ怨むて恩赦を願
 ふを要せむ。反て奸賊素藤の扶持を求めその隊を屬て他が與へ老侯を刺まかせし
 討つて資けく周武と殺さるふ似るべし。今に邪念を轉じ濁り去て清の附んと庶幾外
 侮むるれども身の罪輕くねば縱饒されかとも仁義の君の死を切もの
 るべし。天神地祇も照監ある今に所虚談にあらず願ふの亮直あれかと那陳ま
 さい。這も陳も迭代の後悔の招了紛れりけり。親兵衛をうち听て義實買ひ高
 ち。先侯聞召れ初他們が毒箭をりて死伴當と射付せし候を犯さるる前もそ
 ぞ槍と引提てうち向ひをあるる思ひひは那折弓弦の断れるの神女の擁護
 り。就て不疑ふは安西麻呂の黨を候と怨むるもあらず。神餘の逆臣定包を
 逆より家亡びを我君義旗と揚めて定包と討めし。素より是を徳あり

る小因心義と仇として殺さす。其の甚るる意をその義を實しけり。やとのを那餘の生
 口們的所々俱に殺しとて大江生々々我由來歴來意と詳おつえあはれ。疑念成
 解々憐愍心と無のひびと叫びる。そが一個の且のやう在下の神餘長杖は光弘近習
 るりけ。天津兵内明時が弟也。天津九三西郎員明と叫做きめ。當年這地の使
 民とゆえ。那柚木樸平と洲崎五塔を謀り合も。山下定包と殺さんとせし。及
 那逆臣の奸計に陥られて光弘主を犯せし折我兄天津兵内の樸平五塔と戦を
 命を其里の眉より。是より先我姉の光弘主を仕へか。那玉梓は儔あり。既
 主君の怨をりて五ヶ月及び比光弘果敢る殺されりて。定包長杖と横領ある小我
 姉の光弘主の胤をりて。知りて。淫婦玉梓あり。毒と類んと欲せり。事
 幸ひ不渡り。在下姉と伴て。悄悄地上總へ走り。蘇利村を親族許共
 侶も潜びて在り。憊而月來ふる。隨我姉の産の氣つて。生れり。男兒之故主の落

亂るものぞ。左も右もあつて鞠養む程に我姉の時疫多し。竟も黄白の客とあり。折
 々山下定包の里見の義兵討滅され又麻呂と安西も滅亡ある事の趣と世の
 風聲小すくめぬ。然として還るべし家もす。是より安房さ上總さへ里見の有とす
 夫か。神餘の子孫と尋求めて。絶る家と嗣せんと宣はるといふ。此はもつと恨
 く思ひの。訴せんがまが。百折千磨の世と渡り。腹子と養ひませし。腹子の
 質弱多病也。且その性も人並らね。年十五六不及も。其叔と來多ふ。分るる。刺風
 濕小嬰。脚癩て年中三百六十日枕の外。友もなく。筆把るむりの氣力もあらず。
 何と朽惜く思へとも。鍼灸茶餌加持。呪法も空。馮めめて。效驗る生來る。と争向
 せん。浮世と潜ふ身。あれば。神餘の姓氏と憚りて。酒服子の姓名と。上甘理墨之。弘
 世と名つけまわらむ。果敢る時。の至ると候。小料ら。甚田素藤の招。招ふ心
 這年来主僕二名。錦山の城内。小扶持せられて。安西麻呂們と同列する。あはれ。素

藤心傲りて。我をよらるる。弘世の性。慙多し。刺病者。多れば。月俸も。年
 年の賤く。定のど。ふせられ。口と。餉不足。ねども。在下の。苛刻く。使る。正日。毎の。身
 かり。るれも。這回の。密議と。宣て。這個の。入々。三四名と。俱。小。今日。老侯と。敷。せし。の
 神餘の後。と。あら。げ。恨。思ひ。さ。う。不。成。成。神餘の。舊。領。長。椽。平。郡。と
 與んと。これ。心。迷。ひ。て。賢。明。徳。義。の。良。將。を。暴。虐。奸。詐。の。甚。田。が。與。小。担。敷。ま。く
 欲り。る。先。非。と。悟。り。て。罪。と。知。る。後。悔。の。麻。呂。安。西。と。ひ。合。さ。し。と。同。意。さ。す。非。如。我。身。の
 夫の。終。小。結。紐。頭。と。敷。る。も。弘。世。王。と。憐。愍。て。小。祿。と。も。宛。は。れ。神。餘。の。祀。と。嗣。多。
 夫の。年来。在。下。が。妻。母。孤。忠。も。虚。く。と。死。と。榮。ある。一。世。の。然。び。快。く。目。と。閉。ぐ。べ。願
 ひ。ま。る。の。よ。の。多。の。又。夫。の。男。子。の。同。志。の。狭。客。荒。磯。南。弥。六。が。乾。子。也。椿。村。の。隊。八。と。叫
 做。さ。の。で。い。え。と。の。八。又。隊。八。も。跪。せ。陳。さ。る。小。可。の。甚。田。殿。小。亭。る。因。心。も。い。つ。素
 より。國。主。老。侯。と。怨。ま。る。の。も。る。但。我。乾。父。南。弥。六。と。昔。年。松。木。樸。平。と。俱。不。定

包と敷るまく欲りし。行て光弘主と犯して當日敷られる。洲崎を垢る外孫外
 祖を垢る敷られ折る不総角であり。上總の夷瀧を逃去て年来を歴る
 と所を徳而件の南弥六を。外祖不劣らぬ俠氣あり。無垢を行て光弘主と犯せし。最
 最酷う羞思ひく。神餘の氏族の在る。一臂の力を盡く。外祖の汚名を
 雪んと思ひさる日もある。所以敷る。劍白打相撲の術まで。その師小就て習ゆる。聲
 力も人の捷れ。六里の使長と衆人の首を敷せらる。ののそひ。徳り。程の光弘主の
 後。宥あるよし。少知りしより。歎びて。遂に天津氏九西郎と交結びて。年来疎う
 縁。今番の計議不荷。擔を容き。小可と伴ひて。三個の人々と共侶。不候。敷る。ま
 欲せし。この少年の勇敢。武藝不敵。走くもあ。ぬれ。辛く命を免き。こり。他
 敷る。漏ぎして。囚れ。這里に在る。俱不奇特。感悟と。みづ。新。小。ま。り。し。を
 逃亡する。幸ひる。毛。他が不幸。ひ。ひ。た。と。送る。招了。ま。り。け。義實。衆口。衆意。の

齊一かりし。うち。聴。ひ。て。嗟。嘆。不。堪。ぎ。生。口。們。を。つ。ら。く。と。え。る。つ。て。や。れ。天。津。員。明。と。名
 ら。神。力。魂。異。不。驚。驚。後。悔。陳。謝。の。遅。く。ま。ぬ。汝。亡。君。長。挾。光。弘。不。後。洛。亂。あ
 ら。何。と。必。早。く。徳。々。と。瀧。田。へ。告。訴。せ。ざ。り。ん。弘。世。と。や。ら。が。の。一。も。義。實。が。知。る。の。そ
 る。む。當。時。金。碗。八。郎。ま。る。その。子。の。ま。と。知。る。な。バ。そ。何。と。も。い。で。身。故。り。ま。さ。そ。を。義
 實。が。執。を。と。く。恨。こ。る。の。愚。知。る。れ。も。その。孤。忠。の。憐。む。べ。又。景。次。重。時。と。や。ら。し。も
 志。ろ。る。當。時。麻。呂。安。西。と。義。實。が。討。り。し。あ。わ。む。信。時。の。景。連。不。賣。り。て。終。不
 自。滅。と。取。り。あ。又。景。連。の。義。實。が。功。と。媚。て。邪。計。を。旋。ら。し。攻。滅。さ。ん。と。せ。れ。故。不
 已。と。い。ゆ。ま。鋒。を。交。へ。て。克。と。を。治。る。徳。れ。他。們。が。滅。亡。の。則。自。業。自。得。ゆ。て。怨。る。所
 る。う。べ。然。け。れ。も。麻。呂。安。西。の。同。宗。る。の。罪。と。謝。して。軍。門。不。降。參。ま。せ。我。當。執
 念。深。出。崇。ら。ん。時。宜。小。つ。り。て。甘。舊。家。の。後。と。立。て。家。臣。不。做。ま。せ。死。不。遠。く。走。り。深。く
 躑。れ。て。反。て。悪。人。素。藤。不。扶。持。せ。れ。は。是。も。亦。人。を。知。る。惑。ひ。ん。の。餘。南。弥。六

隊八門の素是市井の俠者なり。志氣ありと云ふも、吾明の酔の同トカ。それ左
 まれ右もあれ絶ると継ぎ廢れると、貞まのの古昔聖王の道ありて、開國は
 善政之陳さるるの違ふ安房殿義成。小命乞へ。願ひのぞく做もゆきせん。但
 その言の證據を。異日るより、鞠問まで、賞罰のその折にあつん先々の意を
 かと仰ふ大家額と衝て、然る面不頭れけり。姑く天津九之四郎貞明と大江親
 兵衛小うち對ひて、目今墜八が稟を。那荒磯南弥六と市井の俠者でいへ
 と。罪を饒して用ひぬ。必做まるとあるべし。他一旦の逃れども敷され。苦痛堪
 びて山路と遠く走りか。所不其頭不躲れ。在るは、是も亦知る。傍逃果
 多。館山へ還らば、虚実を草田不知。妙なる美もゆん。や人を遣して、往
 方と涉獵。多まると。余親兵衛領て、我亦如右思。之の目と貝六郎と
 共侶小うち所。あつて。我門二個。一個かん許を蒙りて。陟獵て在る。牽りて

来てんと。憚ると親兵衛推禁め。不知案内。和殿們より。我走一走。仍て
 索んて。身の起さんとせ。程の傍の樹蔭。又人ありて。やよ和子。一霎時
 等。其南弥六。搦捕て。先の程より。這里在り。やよ。多と叫林。め。樹
 間と徐。空。あり。此は甚。麻多者。そ。開。又。這下。の。回。解。分。と。聽。ね。り。

名山靈有り枯樹復花さく
 逃客路无一老俠停と献る

第百五回

登時樹陰人ありて。大江親兵衛と喚禁め。徐して來り。けり。大家誰と云わ
 見れば。則一個の老翁。鬚髮。再の。皓。枯野。は。残る。小草。の上。置。朝。霜。相。異
 る。身。體。の。瘦。て。枝。疎。る。漁。村。の。松。似。れ。る。筋。骨。も。衰。む。龜。齡。鶴。算。幾
 ぞ。尚。鑠。鏗。と。輕。健。る。氣。力。面。見。て。花。田。の。布。の。綿。腸。衣。の。裳。と。叩。く。結。白
 布。の。袖。脚。衣。と。多。小。朴。刀。と。携。り。多。那。南。弥。六。を。緊。く。細。と。牽。立。々。々。找。る。後

方への續つくハ一個ひとの老嫗らうに也なり。ある鹿袴かの衣ぎを被かて下短したの壺折つり膝ひざは打う粉こな珠たまの精せい悍けん者もの也なり。眉まゆ尖と刀やと揔と遣と捨すて裳もとて
伊い解げ下くだる。阿あ容よう也なり。俱ともも枝えもけ。却かえ説せ老翁らうじゆんの南弥六なんぢろくを索もと會あ縮ちぢて義實ぎじつ主しゆの目め前まへ
遙とほ小牽こけん坐まて膝折ひざを俯うつる。後あと方かたの老嫗らうにも跪つひ坐まて共とも侶りの先まへ老侯らうこうと拜まがりけり。小
程せうの義實ぎじつ主しゆ王わうハ這こ老男らうなん女にょ為な體たいと料りやう難がた々々訝いの備びとる。や親おや兵衛べゑ他
們らハ原はら是こゝ甚た麼ま多く者もの也なり。和郎わらうと親おや多く相識あひしり。他たも亦また這こ山やまの年とし來き住すまむ熟じやくら
兄あに御ご和郎わらうが同宿どうしゆくの者もの也なり。もあはれ徒た然ぜん多くと。いのこ也なり。具ぐる。枝え向むかひ。と思おもひ
ら他た支し分ぶん給たまひ。果はさり。其その人ひとも。怪あやし。あ。と。老翁らうじゆんと信しんとて。あ。ひ。て。女にょと。老
人らうじん親おや兵衛べゑと山居やまゐ同宿どうしゆくの者もの也なり。近ちかく找たづね。顛かぶ末すえと。詳こまか。え。あ。は。れ。や。快たく。と。扇あふを
ひ。連つの。招まね。め。老翁らうじゆんハ阿あと心こゝろと。先ま南弥六なんぢろく。頁へ六む目めの牽けん通とと。主しゆは身み邊へ
へ找たづね。老嫗らうにも後あと小跟こゝて。近ちかく。程せうハ頁へ六む目めの南弥六なんぢろく。又また樹き下したの敷しき糸いと置お直ちやくて親おや兵

衛ゑと共とも侶りの主君しゆきんと左右さうやうの守護しゆご也なり。當下たうげ老翁らうじゆんの恭こうく。義實ぎじつ主しゆの朝あて。と
ら拍は額がくと衝つ頭づと拾ひろて。稗ひ瀨せの逢あひ。素すより賤せん。我われ們らが貴き人ひとの
近ちか着つま。親おやの。と。彌勒みらくの世よも有あり。を。怪あやし。けれ。も。稗ひ上じやう言げん長ぢやう
くとも。聞き召めれ。數かずの。身みの。死し。と。又また世よの。見みる。小可せうかの。大だい山さん道だう節せつ忠ちゆう與よが。父ちちの。大だい山さん道だう
策さくが。舊きゆう僕ぼく也なり。初はつの。姓せい名なの。姥おば雪ゆき與よ四し郎らう後ごの。梶かぢ原はら。の。借か平へいと。喚こゑれ。の。の
あ。て。又また此こゝ侍しやうの。拙せつ荊しやう也なり。名なと。音ね音ねと。喚こゑ做しやう。道だう節せつの。姥おば母ははも。及および。也なり。
今いまより。稗ひ前まへの。秋あき末すえの。初はつ旬しゆん我われ兒こ十じゆ條じやうカ。二に郎らう及および。弟あに尺せき郎らうハ。武藏ぶさう豊ゆ嶋じまの。戸と田でん
河か之の大だい士しを。追お隊たいの。大だい敵てきを。遮しや留りゆうの。斷つ戰せん也なり。竟つひに。戰せん没ぼつ仕しの。折せ々々音ね音ねの。兩りゆう個この
媳よめ婦ふ也なり。單たん節せつと。世よに。不ふ娯ごて。上じやう毛もう洲しゆ甘かん羅ら郡ぐん白はく井せいの。城じやうの。程せう遠とほく。山さんの。隱いん
宅たく在あり。北きた末すえ月げつ六ろく日にちの。兩りゆう個この。兒こ子しカ。二に尺せき分ぶん亡わう魂こんの。母ははの。宿しゆく所しよへ。歸かへり。來きり。怪あや
談だんの。外ほかにも。要えい緊きんの。ゆ。其その頭かぶの。言げん略りやく也なり。然しか而しても。言げん詔しやくり。後あと方かたと。た

か。や。音音。是より後のつひも。渾家。そよく覚るる代りて。宣上。ま。と。の。れ。て。
 音音。も。膝。を。找。め。く。義實。主。の。稟。を。う。自。今。良。人。與。四。郎。が。空。を。あ。け。な。り。一。ご。く。
 賤。妻。と。媳。婦。ハ。煉。馬。家。の。滅。亡。の。世。と。不。娯。て。件。の。山。家。ハ。在。り。一。か。良。人。ハ。年。來。
 故。あり。て。武。藏。の。梶。原。ハ。流。寓。ひ。て。漁。獵。し。て。世。と。渡。り。た。折。々。主。を。大。山。邊。即。及。
 其。の。黨。大。塚。大。川。大。田。大。飼。も。不。憶。く。賤。妻。ハ。隱。宅。の。聚。合。ひ。夜。文。與。四。郎。も。亦。情。
 女。の。武。藏。より。あ。る。け。る。が。兩。個。の。兒。子。カ。二。郎。尺。八。ガ。亡。魂。の。媳。們。が。馬。を。兼。り。牽。れ。來。て。大。
 士。の。與。ハ。戸。田。河。老。追。隊。の。頭。人。丁。田。氏。と。思。ひ。の。隨。ハ。戰。ふ。て。件。の。頭。人。町。進。と。戰。果。一。さ。
 支。の。形。勢。を。報。知。し。廿。又。二。親。の。離。別。し。て。年。來。胡。越。不。異。る。ぬ。と。ち。數。く。この。切。り。一。城。
 道。節。听。て。深。く。憐。れ。這。宵。亡。親。道。策。不。代。り。て。借。平。の。與。四。郎。が。做。去。一。昔。の。罪。と。宥。め。
 酒。盃。と。合。さ。し。う。賤。妻。と。夫。婦。ハ。做。一。ぬ。是。等。の。情。由。ハ。思。々。あ。て。面。正。く。い。ま。れ。と。
 多。く。原。野。合。の。夫。妻。を。離。別。あ。る。を。故。れ。も。兒。子。の。忠。孝。與。四。郎。も。功。あ。る。と。り。く。許。さ。

と。小。條。が。雲。の。侶。白。髮。老。て。の。後。ハ。婚。禮。ハ。世。有。る。ま。と。多。く。恥。し。も。亦。哀。し。ま。の。か。り。方。の。
 多。く。泣。き。あ。る。は。い。う。涙。吐。き。も。り。當。下。與。四。郎。焦。燥。て。並。々。雜。談。の。ま。も。あ。ま。と。林。亦。め。く。
 貌。と。改。め。て。却。ち。死。を。稟。上。ん。た。の。夕。音。音。が。隱。宅。へ。道。節。們。を。宿。せ。し。う。と。白。井。密。訴。
 せ。の。め。あ。る。え。れ。の。も。緝。捕。の。頭。人。巨。田。新。六。郎。助。友。が。軍。兵。多。く。從。へ。不。意。ハ。起。り。て。推。
 寄。せ。ま。る。支。の。難。美。及。び。我。們。必。死。と。究。め。折。大。士。の。一。人。大。田。生。也。軍。帥。即。之。我。
 舊。里。を。行。徳。領。て。あ。ん。と。の。れ。れ。る。の。談。小。任。を。奉。立。置。さ。る。駿。馬。の。う。も。無。せ。小。
 可。音。音。の。道。節。と。四。大。士。と。後。安。く。延。ん。為。の。稱。入。敵。と。姑。且。防。戰。ひ。が。竟。お。り。折。れ。
 勢。究。り。免。れ。る。も。あ。る。ぬ。れ。が。終。奥。の。退。路。に。家。ハ。火。に。放。け。夫。婦。ハ。一。く。痛。々。た。は。極。
 火。の。内。ハ。跳。入。ん。と。せ。り。程。ハ。奇。多。か。煙。の。裡。ハ。嬋。娟。と。一。個。の。神。女。最。大。に。あ。る。大。の。
 背。ハ。尻。を。搦。け。て。出。現。あり。小。可。と。音。音。を。制。め。若。們。ハ。是。忠。臣。節。婦。天。助。感。應。
 多。く。ん。と。奴。等。を。戰。没。せ。し。ま。是。ハ。推。乃。れ。と。宣。示。し。て。大。子。の。絆。と。投。被。あ。へ。小。可。們。の。夢。

牧と可小且駭且感激して。音音も俱おる麻索の携ると。歸て中天へ被登
 されて。忽然と黑白も知さるふけり。信而その詰朝まで。小可も亦音音もさるふ
 我の復して共侶の身と起る。驚きさる四下を顧る。怪しや身の這深山に在り。水も
 織々として。奇可品の間も流れ松の亭々として。涼風の秋の吟を異草地に満く。観
 熟る花散る林鳥梢も集て耳環に聲をさる。是さる意外の奇觀も亦音音もさる
 ろゆ。年四五る穉兒の一人山嵐の内も在り。小草花と面子も。餘念もあさ
 足さけり。登時小可們思さる。原来身のま。冥土も到りて。這頭も置る。ゆる
 然る。前面も谷川の俗の口順もさる。塞の河原もあさる。若あさる。穉
 兒の一個這頭も在り。あんと七歳未満の孺子も。死して火のあさる。問訊と
 尋思とある。夫婦悄悄地も商議。俱も出嵐の頭も赴て。喃和子も又同
 ん。這里の什麼那地も。這山の名も何と。あんと。倘知ると。誨さる。和子の亦何もの

故の獨這頭も置る。其由もあん甚麼も。問へ件の穉兒の荒元中もあさる。ゆる
 翁們のいも。知さる。這里の安房の富山の干松も。前より比里見の息女伏姫上の
 山居もあさる。果は刃も伏あさる。則這品出嵐も。墳墓も亦這里も在り。我の則翁
 們も故主犬山道節忠與們も。大さる。ぬ宿因も。八犬士の隨一人犬江親兵衛仁
 過日我身の下總も。市河の頭も。箇様々も大厄あり。伏姫神の救せぬ。這山
 領て来ぬ。隔昨日のさる。其より今も。姫神の傍も在り。尉あさる。徒
 然る。這里も在り。昨日翁們を猛火の内も救て。這里領て来ぬ。亦姫神の眞
 助も。身の歎も。哀さる。毎も大人備て。且過去も悟り。未來も示も。辨論意
 表も出さる。世も又あさる。ね。且敬馬也。且惶も。夫婦も歎も。あさる。あさる。
 神女のの穉兒も。馮りて。いせぬ。あんと。思ひも。謹て。原来も。身も。五犬士達も。噂も。初て
 所知も。大江腋も。子も。甘。歎神女も。那里も。在る。と。問へ。後方も。指して。那。那



親兵衛

苗

かたのあかたう
 世のつひに
 そとあひかれ本
 死さ死よけり

文治堂藏



花のうた

花咲の公羽

文治堂藏

牽退けて。遠く皮樹間の駝系置れし。寄隊の雜兵群り来て牽りて去んと競走を。
大田主の走り来て。防戦ひあふ程。刀尖狂ひて。駝系に馬の絆索と撲地と断れ。馬の
猛火の駝噪は。狂ひ走り。駐んと欲する敵と蹴倒し。勢がひ當り。ければ大田主も術
まろけん馬の快と。前如く。去向も知らず走り。その折。奴們兩個の俱生。心地
のねと尚鞍局より隊も。膝られる故。ゆり。悠て。馬の直走り。走る。幾町走り。い
路。居るの野武士在り。奴們が馬の走を。駝駐んと。それをも。駐る。あ。ぬれ。遣過
考。連發なり。銃响。高。鳥。眼鏡。馬。駝。所。駝。れ。ん。嘶。わ。む。蹴。踢。て。倒。れ。ん。
せ。折。り。忽。然。と。燐。火。と。茶。丸。兩。個。の。團。敵。目。先。に。來。り。奴。們。が。頭。の。上。に。撲。地。と。墜
ると。思。ひ。の。共。侶。の。呼。吸。絶。え。ん。後。の。の。と。知。る。ゆ。り。去。る。大。人。達。の。ま。る。く。
駝。れ。馬。の。奴。們。を。乗。り。て。遙。く。這。深。山。邊。に。來。り。全。伏。姬。神。の。擁。護。を。疑
ひ。る。世。の。復。ゆる。幸。々。々。尙。夢。中。の。ゆ。り。ま。や。と。女。が。報。れ。女。弟。も。續。て。送。り。盡

て。來。り。方。の。物。々。り。不。目。の。園。る。と。覺。び。當。下。音。音。の。笑。ひ。の。申。す。單。節。も。ち。對。ひ。て。
今。も。登。り。の。生。あ。ひ。る。大。江。神。童。の。身。邊。伏。姬。神。の。ゆ。り。ま。と。守。り。あ。り。ま。れ。る。
登。り。の。奴。家。も。凡。夫。の。視。ゆ。り。え。あ。る。ま。れ。る。那。子。の。神。々。あ。る。託。宣。ひ。あ。る。ま。れ。る。
れ。和。子。の。再。生。の。欽。び。と。直。平。も。く。尚。の。後。の。吉。凶。禍。福。と。同。く。往。方。と。定。め。ん。や。ま。あ。
と。心。囑。て。大。家。俱。不。屈。の。頭。の。跪。坐。て。神。童。を。俯。拜。す。稟。を。す。死。誨。ふ。り。申。
て。ひ。と。よ。多。單。節。も。あ。の。地。方。の。來。て。在。り。し。と。不。知。て。介。保。し。て。悠。再。生。の。幸。福。と。信。ず。り。只。惜。む。
娘。婦。們。が。衆。る。馬。の。驚。れて。生。ず。も。ゆ。り。他。の。ゆ。り。仕。ん。又。我。們。の。那。地。と。投。り。赴。り。
道。節。們。の。環。會。す。り。ゆ。り。あ。の。毛。も。教。え。あ。ひ。か。と。同。く。徐。に。あ。り。然。る。馬。の。亡。骸。の。
那。里。の。大。塚。と。推。並。く。叮。嚀。の。埋。め。る。成。と。午。と。の。地。枝。六。合。え。素。示。し。り。因。縁。を。た。お。
あ。の。金。も。那。里。あ。る。ん。又。這。山。の。羊。居。り。又。麓。の。河。水。淵。と。成。て。人。馬。の。通。路。入。り。
絶。ち。縦。汝。達。故。王。の。墓。を。て。他。御。へ。去。ん。と。欲。す。と。目。今。の。山。と。出。る。が。咱。們。の。俱。あ。

このひかり。時に至ると今より衣食の類は姫神の賜なり。皆先これを
這山屈と宿とて時の至ると今より衣食の類は姫神の賜なり。皆先これを
たすよ。秋桃四顆と合せてさるる授けられぬ。大家をく受戴は。伴の桃と
たすよ。味ひ宛。蜜の似て。只一箇を飽する。是より數日飢さけり。信而小可們を
是も神女の賜なり。と思へ。合さるる戴は。見たり。首級は。菅塚と推並て馬は
骸と埋め塚と造りて。又山屈かへ來ぬ。神童の昼寝とて。折々初秋のるるを
被る衣の薄さ。脇不縫の間より。その背のええさ。丸の命より。殿内瘧子あり。形牡丹の
花の似れ。大士の黨誰か。も。同像の瘧子あり。と。今更思ひ合せて。あつらひ思
惟る。小可們は。少り。一時過失を。あれ。の。年来積る功德の。毫も。然る。神童は
ま。一家四人の。必死。救ひ。這山置ある。その所以。あ。願ふ。這神童は
我們四個。守させ。その徒然と慰る。よ。思召る。神謀の。あ。ん。ん。

は。現我故主も。大士の隊。俱骨骨肉の。優を。過世あり。と。豫听し。今又思ひ。這神童の
仕る。道節主。仕る。又。何ぞ。異なる。況。五。大の。黨の。昨日。寄隊の。虎口。免れて。恙あ
ら。託宣あり。今。何ぞ。他。と。求ん。や。と思。あ。ろ。と。音。音。中。も。及。媳。們。の。耳。示。せ。大
家。然。と。點。頭。て。俱。心。と。い。ち。あ。守。と。和。子。を。慰。め。是。日。より。と。銅。金。を。采
さ。味。嚼。さ。菜。蔬。さ。誰。が。も。て。あ。る。と。の。知。ね。も。比。自。山。屈。の。内。在。り。又。夏。及。は。衣。も。も
神。女。の。賜。と。あ。り。て。求。め。れ。ぬ。も。ゆ。る。と。の。約。莫。日。毎。の。食。料。の。竭。ん。と。ま。れ。ぬ。孰。の。間。の。一。苞
片。又。あり。り。依。藤。太。が。龍。宮。の。の。り。と。ゆ。え。米。菖。も。休。あり。ん。と。思。小。可。の。筆。畫。藏。之。最。奇
る。信。而。神。女。の。親。兵。衛。腋。子。の。習。讀。書。と。初。と。て。文。学。武。藝。藝。送。も。多。く。教。え。欲。と。思
ふ。の。年。來。回。遊。る。り。か。も。小。可。們。の。眼。神。女。を。拜。と。ま。る。と。克。ん。と。入。聲。也。と。思。と
獨。和。子。の。と。分。明。る。と。細。沙。と。坦。と。て。字。と。寫。覺。え。の。書。も。多。く。素。續。と。ま。る。と。或。は。鼓。子。劍
弓。馬。の。技。獨。学。し。と。獨。学。る。も。是。等。と。を。奇。し。中。の。一。大。奇。事。と。思。ひ。ひ。り。親。兵。衛。腋

子の身長の年々伸る世の派子の十倍して六稔の程の成人有奇五寸許のふたりあり
奇異のゆゑやと少許退れ腰の夾する巾の額の汗と推拭へ音音の良人の立
替りて又死候と稟せし事珍奇のそれとて尚一椿事の御利益なり初鬼の軍節即
この御山を來り比より猛可腹の大なるを壁の有身より臨月の異なる病癒す
為のあはれ思ひ難て他們を質し向たりて鬼の軍節を合する際をせむ
亡天達と婚姻の折幾日もの別れより三枕と並ると一稔の程をたし亡魂
見えの思ひ今も奴們の有身へも傳へる怪し腹内之折々動くの傳ふ
甲乙一對の思ひ不思議侍るか甚麼病病の所為をん心かかぬ年々婚姻の比
より今も月水と血塊との年の麻毛を生下て形形と做すとありと云云と
あはれ我々も涙すとの思ひ侍りとの思ひ與四郎が所く凡夫の臆病の云云と
もの思ふも又神童より生て神女の上向然とて軀て件の義を腋子告病

瘻の根元と向なり親共衛腋子の答るも鬼の軍節の懐妊之素より病病の所為
あはれ初力二尺八門と漆臥続一宵六へも折他們の姉妹俱既而有身たり折々煉
馬家滅亡と夫婦離別の眞愛苦あり故胎内の子の氣血足らぬ大なる臨
月遙か過る生れざりて母們は今も知らずを徴へ鬼の軍節即那比より今
までも月水あるゆゑ疑ひと解し足るる過日姉も妹も荒茅山の窮難と脱る
折棄る馬と野武士們的鳥眼鏡の較れか馬は爲他們を棄せ這地方來ぬるも
その折兩個の遊魂の隊を他們が懐入るるも皆是神女の神力よりなり那日の燐火力二
郎と尺八の遊魂と神女の憐れみの故も兩個の妻の胎を投し胎内の子は氣血を補ひ且
這山を神將仙果とてさるる姉も妹も胎内の子の猛可大なる思ひ
安産遠くも又何を疑んや併ふの年来若們一家父子夫婦の忠義節操披露
るれり後々心報足るる造化の神の憐愍て力を用ひし神女の眞助の思

此善あ善の報あり悪も善の報あり那房八分身を殺して仁を徹る応報と粗相似すと
 悟りながらと丁寧小示のゆるが皆疑ひの雲霧晴て茲も照ると天津日の恵も遇ふ神の加護
 惶ろも亦泰さふ大家涙吐ひまでも感嘆せざる侍らる是より三十日許を経く鬼の單
 節も同日小産の氣つて安らふ生るの俱ふ男子もその面影の力あり尺八も肖て毫も違
 らず思ひをゆるく兩個まで孫をゆりし祖父祖母共侶の愛するがため甲乙俱ふ合の揚の産湯
 浴を谷河の水より深き姫神の心更にと感じあり飲びたるもゆるる然る鬼の單節即ち
 血量もゆる肥立程の乳も亦よ半く孫の甲乙よく肥て病氣もよく生育ゆる因て父の
 名もよく依の鬼もゆる力二郎單節が生ると尺八と名つけず年来親育あり今茲は六才も育
 ゆる身長の伸ると智慧力量も神々の大江和子よりゆる及ぶゆるゆるねと見あり
 尋常より七八才の童蒙より大なるゆるん飲るとゆるて吻をさうら笑ふ與四郎已々と推林示
 りて找も出願も働て又義實主の稟もゆる其後做死きもを幸いありと鋤秋金あれ併

作せむとこの親兵衛腋子に諾る衣食へ折々伏姫神の賜らんと仰る小冊して何れ見
 且這山あり石もければ水田陸佃共必要も但這山峯上の觀音堂ありそは老侯の志願あり
 伏姫上の菩提の與れ昔年建立ありしか落城の比りも此這山河の水倍て船中筏も竹干
 届くべ今も造て二十許年張祿元年よりかんせんまも参詣の貴賤登山山路も那里より久香華絶
 翁と媪們的身の勤折々御堂掃除して香も焼けた花もあせ親族有縁亡人々の
 菩提も吊小くを相忘れかゆと誨させありしか斯然して朝毎小峯上登りて觀音菩薩壇に
 拜とまわぬ日の稀也別當田を造る遥けも六松の光陰時小文明十五年多と麻茶けりり
 如く憊而今日朝未明小大江生が慌あく小可毎生る幸も翁們のいまでも知るべいぬの目よ
 且這山河の水の猛も落れ今日瀧田の老侯の伏姫上の墳墓を祭らんと登山あり也
 その故の箇様々々と那素藤が反逆の事の顛末并小御曹司義通君の御窮阨の趣を
 言語と急迫し解知して又神託もゆる焼雪們皆養れ今日老侯の登山の折箇様箇

八十八傳 第八十一 文英堂蔵



花咲のあき



花咲のあき

みと六

山路やまぢ迷まよふく
南弥六
生いけ拘とりあ

八十九卷

様の危難あらんを大江親兵衛が對治せんといふ易き若們の折をて老侯の
 参して俱し御恩の預りまれば今より傳世の身元道節自餘の武士們も再會必
 遠くあつて冷陽世幽真隔れば是より永く別れんといふ送る傳へると神女の仰か
 といれて音音曳の單節も皆共侶のち敷馬にて遠く激冷線香の燈籠身と淨ゆ
 那里不在とい知るぬも釋見力二尺八寸の誨で大家共侶の脩け并ら別れの惜も隨
 感涙の坐を找ぬ袖濡れて見方もさくゆひ花降り音樂をえて尊さ越も亦増
 せり然る而も又此のあつれば一垂時目送りなり大江生六時分と料り今日老侯の寇
 做去奴們を對治せんを精悍く身装束の棒挾きて麓路投て出てゆく有敷
 心のまゝで推續んとて準備とをぬれば音音并の媳婦孫們共侶として後小跟
 くと禁めもある末折逃迷ひけん一個の檻見足と曳の前面より東の撞見
 きたりければ遣も過ぎ組伏せり索と楯ひは他身小受る撲傷の疼痛の堪

かりけん小可如老人の敵の志をて茲及り候而這檻見を牽り這方へある程小
 同類の檻見四名の毎大江生小崩捕られてを招くと聞召を折るれば功を找
 言の果ると等しく逃す賊徒南弥六を趕捉んとて人々の既小立すせられ已
 必を聲とかけて君の見参入るるも小可音音們兩個の媳婦が六稔以前の再生幸
 伏姫神の真助なりと稟上り一期の松以附驥の功過世あり伏一家の采と稟
 鳥許小ゆるる這檻見の隊八とやが招了り著れり那南弥六疑ひる皆是君の
 威徳をて世の有くむいと宣せ音音も千歳の壽を唱り唱けるを聞き見王後生
 口母に至るまで皆駭然と面と注して新奇と感嘆をさけりその中義實王扇子を
 膝に歌杖を推立頭と傾けてげくと听果て感心尤浅くを媿雪夫婦の對して現不
 可思議の神助靈驗方寸前小視聽くあまの誰う実説と思ふ御向の中既小
 びまぐせと言ふは果さるる新兵衛も听ねり我の年来伏姫が菩提の與他

死のちど、あふげよりのうらみ、みせせう、ゆゑの、さき、りやう、あふてうつら
 月の七日毎の精白米五苞并の味噌将酒油菜蔬柴薪の料を大山寺へ遣て、食民
 乞見亦前を興へ又夏冬の障子布を施す、幸せし、詰来て齋をさへるめ、寡の折、
 米のあつてその餘の東西の残らざとぞ、誰がて去と、知らぬも、信るの折あり、又布をど
 も如右と、ゆえ、も久く、る、又親兵衛が被る、繻衫も、願へ、出処ある不似、昔年伏
 姫が常の布用、錦綉の袖見あり、他が身故りなり、比大山寺へ遣て、調度
 る、と、共、信、那里の宝藏、お、棄め、置せ、彼と、此と、よく、相似、上り、思ふ、六、総、以、来、
 伏姫が亡魂の親兵衛と若們、養ひ、外の東西、を、皆、我、施、約、の、有、餘、を、同、
 び、と、知、る、信、れ、由、て、来、と、あ、不、思、議、や、不、審、義、あ、ま、然、も、思、の、ま、と、
 宣へ、大家、呼と、む、り、ゆ、く、感、嘆、あ、り、け、る、這、回、の、ま、ど、盡、さ、し、も、楮、數、あ、ら、定、
 限、あ、ら、卷、を、更、く、第、百、六、回、解、分、る、を、聽、給、か、り、
 南總里見八犬傳第九輯卷之七終

